

6月、7月のオープンキャンパスの「AO・推薦入試説明会」のときのプレゼン例

私のテーマ:中国語からアジアを見る

受験番号 J123456 高尾 拓也 中国語からアジアを見る

高校時代の友人で、中国人の祖先をもつ友人と仲が良く、彼の家に行くと中華料理をごちそうになり、いろいろな中国文化に接し、中国に興味を持った。

ノンフィクションを読むことが趣味で、「フィリピン新人民軍従軍記」という本を読んだら、日本人留学生がひょんなことからゲリラに同行した記録で興味深かった。そこからフィリピンに興味をもち、作者の野村進先生の経歴を調べると、拓大国際学部にも所属し、国際学部にも興味をもった。

- 野村 進『フィリピン新人民軍従軍記』講談社、2003年

大学では中国語を学び、仕事で使えるくらいの語学力をつけたい。中国にも留学をしてみたい。

中国だけではなく、中国の影響にある・関係の深い香港、台湾にも訪問してみたい。

また、中華系の人が多く住むという東南アジアの国々にも行ってみたい。

そのようなことを学ぶために、国際学部では国際文化コースに入り、語学はもちろん、文化についていろいろな面から学んでいきたい。

ゼミナールでは、自分が拓殖大学国際学部を知るきっかけとなった、野村進先生のゼミナールに入り、中国だけではなくアジアについて学んでいきたいと思う。

大学卒業後は、ばくぜんと中国に関係する仕事をしてみたい。

中国や中国人を相手にする仕事があれば、自身が中国に駐在して仕事をすることもチャレンジしてみたい。

何のための説明かわかりにくい

話すことをそのまま文章で見せると、要点がつかみにくい

文字だけで面白くない

「～という」では、どのぐらいの知識があるのかが不明

「ばくぜんと」は積極的に考えたことを感じさせないことば

1. きっかけ

(1) 中国への関心: 高校時代、中国人の祖先をもつ友人

遊びに行くと、いろいろな中国文化に接することに(中華料理、○○○など)

(2) 拓殖大学国際学部への関心: 野村 進『フィリピン新人民軍従軍記』講談社、2003年

ノンフィクション(日本人留学生がひょんなことからゲリラに同行した記録)

面白い! ~フィリピンに興味を持つように

& 作者の野村進先生は? ~所属拓殖大学国際学部に興味を持つように

話の要点と進み方がわかるように工夫

2. 大学での学び方

(1) したいこと

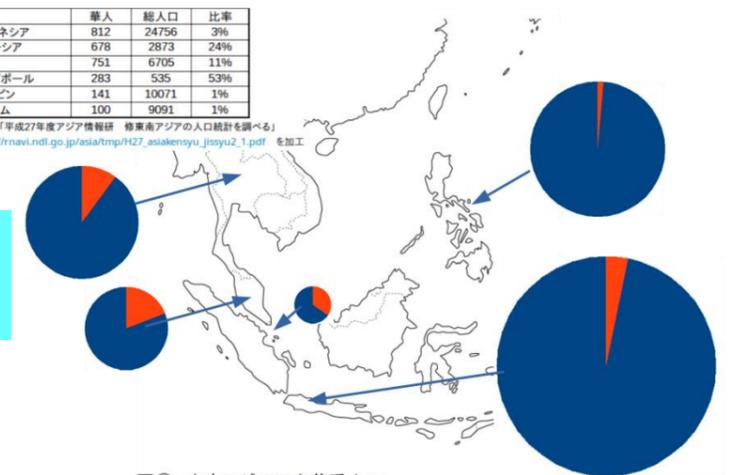
(省略)

- 東南アジアの国々にも行ってみる

~中華系の人が多い(右図)

	華人	総人口	比率
インドネシア	812	24756	3%
マレーシア	678	2873	24%
タイ	751	6705	11%
シンガポール	283	535	53%
フィリピン	141	10071	1%
ベトナム	100	9091	1%

数値は「平成27年度アジア情報研 東南アジアの人口統計を調べる」
https://navi.ndl.go.jp/asia/tmp/H27_asiakensyu_jitsyu2_1.pdf を加工



図〇 東南アジアの中華系人口
(地図は「白地図専門店」<http://www.freemap.jp>の無料地図使用)

調べた結果をオリジナルの図像にしてアピール!
(使った資料名もきちんと示そう)

(省略)

(2) 学び方

省略

3. 将来

大学卒業後は、具体的な業界・職種というより、中国に関係する仕事をしてみたい。

・省略

積極的な気持ちが伝わる表現に